



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2020年12月号)

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomono-mori.net> <mailto:info@kodomono-mori.net>

J P 子どもの森づくり運動とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



新型コロナウイルス感染症の対応に追われた2020年も、残りわずかとなりました。
参加園の皆様におかれましても、ご苦労の多い大変な一年となったことと推察します。
来年こそは、少しでも感染症の状況が改善に向かうことを心より願っております。
どうぞ、良いお年をお迎え下さい。(写真：「伊達こども園」植樹会より)

(目次)

1. J P 子どもの森づくり運動 2020年活動報告
2. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ (2020年12月号)
3. 【事務局からのお知らせ】「全国集会 & 研修会2021」Online大会参加者募集

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。
しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛：日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育園連盟

(公社)大谷保育協会

保育環境研究所ギビングツリー

(公社)国土緑化推進機構

N P O 法人 C・C・C 富良野自然塾

(公社)こども環境学会

国際校庭園庭連合日本支部

(一社)日本森林インストラクター協会



1. J P子どもの森づくり運動 2020年活動報告

2020年は、新型コロナ感染症で始まり、残念ながら感染状況が改善されないまま終わろうとしています。この感染症下の中で、J P子どもの森づくり運動（特別協賛：日本郵政グループ）の参加園においても、エッセンシャルワーカーとしての厳しい保育の1年となったことと思われます。運動の運営事務局（子森ネット）においても、感染症下における幼児（少）期の自然・環境体験活動の意義、そして樹を育てる活動の意義等、感染症対応との間で活動の“そもそも”をつきつめ直す重要な年となりました。

J P子どもの森づくり運動では、2020年、「東北復興グリーンウェイブ」等、これまで継続していただいている活動と共に、感染症対応の厳しい保育の期間をただ耐えるだけではなく“こんな時だからこそ”をキーワードに、「保育力」のスキルアップを目指す期間とする四つの活動を提案させていただきました。「自然・環境体験活動全国キャラバン」、「園庭緑化運動」、「保育防災アクションマイスター認定講座」、「『♪どんぐりえがお』でつながろう・プロジェクト』の四つです。感染症下の長いトンネルが抜けて保育の日常が戻ったとき、ただ前に戻るのではなく、より良い保育づくりを目指す保育者をサポートする活動です。

幸い、参加園の皆さんにご共感いただき、着実に成果を積み上げさせていただきました。以下、年末にあたり、年内の活動について報告させていただきます。皆さんと共に達成した成果です。ご共有いただき、来年からの活動展開に向けての礎としていただければ幸いです。紙面の都合で、ダイジェストな活動報告です。活動の詳細についてはホームページをご覧くださいませようお願い申し上げます。なお、活動は、事務局（子森ネット）と参加園との連携による十分な感染症対応の中で運営されました。

1) 【「東北復興グリーンウェイブ」2020】活動報告】

●東北の“どんぐり”の苗木を見送る活動

2020年の「東北復興グリーンウェイブ」における岩手県宮古市での植樹活動は、新型コロナ感染症対応のため来春まで延期となりました。ただ、全国の参加園で育てた東北の“どんぐり”の苗木を、「東日本大震災」の被災地に送り返す活動は、それぞれの参加園の感染症対応の事情によりしますので、活動は園の判断に委ねました。結果、全国で17園もの参加園で、東北の“どんぐり”を見送る活動が行われ、150本の苗木が岩手県宮古市に届けられました。今年届けられた苗木は、宮古市の幹事園「あかまこども園」で管理され、来春、宮古市や福島県の植樹フィールドに植えられる予定です。



岩手県「あかまこども園」に届いた東北の“どんぐり”の苗木

●東北の“どんぐり”の苗木を植える活動

2020年11月5日福島県伊達市の「伊達こども園」の園庭において、J P子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」における、“どんぐり”の苗木の植樹会が行われました。伊達市では、「東日本大震災」の際の除染活動のため、多くの樹木が失われました。そこで「伊達こども園」では、木を育てる活動を通じて子どもたちに緑の体験を提供することと故郷の緑の復興を目的に、園庭に“どんぐり”の森をつくる活動に取り組んでいます。「東北復興グリーンウェイブ」では、2018年から、全国の子どもたちが育てた東北の“どんぐり”の苗木を提供し、同園の“どんぐり”の森づくりをサポートしています。



福島県「伊達こども園」植樹会

2) “こんな時だからこそ”提案したい【WITHコロナ】四つの活動レポート

●自然・環境体験講座全国キャラバン2020

この機会に、外遊びや自然・環境体験活動のスキルアップを目指そうという保育者の方を対象に、「自然・環境体験講座全国キャラバン2020」を開催しました。インストラクターが出向いて、それぞれの園の実情に合わせた実践的な講座を実施しました。2020年は、「春日野まごころ保育園」（広島県）、「丸亀ひまわりこども園」（香川県）、「浦和ひなどり保育園」（埼玉県）、「味坂保育園」（福岡県）の4園で開催されました。



埼玉県「浦和ひなどり保育園」での活動

●「園庭緑化運動」モデル事業

園庭を、単なる平坦な運動だけの場ではなく、幼児(少)期子どもたちにとって多様な自然や環境のもっとも身近な体験フィールドとして緑化、改善していこうという運動です。2020年度は、モデル事業として、静岡県「エンゼル幼稚園」、東京都「三茶こだま保育園」、鹿児島県「こども園ほしのこ」の3園において、「国際校庭園庭連合日本支部」代表の仙田考先生によるワークショップが定期的に行われています。



静岡県「エンゼル幼稚園」ワークショップ風景

●「保育防災アクション認定講座」シミュレーション講座

保育・幼児教育施設（以下「保育施設」）における防災対策は待ったなしです。しかしながら、そもそも多くの幼児(少)期子どもたちを預かっている保育施設では、通常の防災対策は通用しません。J P 子どもの森づくり運動では、今年度より、消防庁アドバイザー鎌田修広氏と共に、保育施設に防災のスキルと高い防災マインドを持つ防災リーダーの養成を目指す「保育防災アクションマイスター認定講座」の仕組みづくりに取り組み始めました。今秋、講座内容の実効性を高めるために、埼玉県「児玉保育園」、新潟県「つくし幼稚園」においてシミュレーション講座が開催されました。



新潟県「つくし幼稚園」講座開催風景

●「♪どんぐりえがお」でつながろう・プロジェクト

新型コロナ感染症下で、子どもと子ども、子どもと保育者の関係が断絶されがちな今だからこそ、「東北復興グリーンウェイ」のテーマソング「♪どんぐりえがお」によって「絆」を実感してもらうことを目指す活動です。テーマソングを歌う活動は、全国の参加園で実施されています。子どもたちの歌と映像は収録してDVD 化され、全国の参加園に届けられます。



広島県「山本まごころ保育園」活動風景

2. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ (2020年12月号)

「園庭緑化運動」の普及を目的に、園庭緑化（改善）についてすぐれた研究や活動に取り組んでいらっしゃる四人の方々のリレーエッセイを掲載しています。「子森通信」10月号から12月号は、「学校・園庭ビオトープ」の普及を推進されておられる（公財）日本生態系協会の田邊龍太さんにお願ひしました。とても有益なエッセイをお送りいただきましたが、今回は最終回となります。

子どもたちに自然を ～園庭の自然化による教育・保育の可能性

（公財）日本生態系協会 教育研究センター長 田邊龍太



■はじめに

『原っぱなどの無意味と思われる空間の消失が、子どもたちの成長に大きな影響を与える可能性がある。一見無意味な空間から価値を見出すことができなくなり、人の創造性、適応能力、ストレス耐性などに影響を与えている可能性も指摘されている』。

これは、文部科学省の「脳科学と教育」研究の報告書（2003年）の一節（一部略）です。いろいろな虫や植物、土や石、そして季節の変化など、自然には多様性があります。子どもたちはこの多様性の中から、自らが面白いと思う題材を見つけ、創意工夫をしながら夢中になって遊びます。園庭を自然化することは、子どもたちにこうした主体的な遊びの機会をさらに提供することにつながります。

■地域の自然と比べて援助しやすい

保育者にとって園庭を自然化する魅力には、地域の自然と比べて、援助しやすい点があります。いつも活用する中で、「例年、ここでカマキリの卵が見つかるから、今年も・・・」など自然のトピックを予測できれば、子どもたちに気づきや発見を促しやすくなります。一方で、「この木には触ってはいけない虫がつきやすい」など危ないことが予測できれば、事前のチェックがしやすくなるなど安全管理にも役立ちます。

予測を高めるためには、日々の観察と記録が大切になります。園庭であれば、こうした対応が可能です。自然のトピック、そうした自然を活用した子どもたちの遊びなどを、年間を通じて記録し共有をしていくことで、保育者全員が園庭の自然や遊び方に詳しくなります。記録し始めたときは、動植物について分からないものばかりと思うかもしれませんが、地域の自然と異なり、出現する動植物は限られます。自然に詳しい保護者や、地域の自然の専門組織などを仲間に加えて、自身も楽しみながら情報収集をしていきましょう。

子どもたちのために「砂場や遊具と同じように園庭に自然があることが当たり前」という未来を目指して、今後とも私たちは自然の専門組織として園や養成校の取り組みをご支援できればと思います。



※information：（公財）日本生態系協会

日本生態系協会では、自然を保全・再生し、その自然の恵みを地域振興、防災や減災、教育や保育等に生かす社会づくりにむけて、政策の提案や、調査研究、モデル事業のコーディネートを行っています。その一環として、子どもと自然をつなぎたいと思う人の輪を広げるために、保育者等を対象に「こども環境管理士」の認証を行っています。詳しくは協会HPをご覧ください。

3. 【事務局からのお知らせ】「全国集会＆研修会2021」Online大会参加者募集

2021年2月17日(水)、18日(木)に開催される、「全国集会＆研修会2021」の参加者を募集中です。今回は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、Onlineでの開催とさせていただきます。まずは、感染症下での子どもたちの屋外活動について、その意義と可能性について協議したいと思います。さらに、J P 子どもの森づくり運動が2020年度に取り組んで来た「園庭緑化運動」の成果発表と「保育防災アクションマイスター認定講座」の概要発表も行います。参加申し込みは、別紙、申込み用紙でお申込み下さい。

詳細は、ホームページをご覧ください。⇒ <http://www.kodomono-mori.net> 皆様のご参加をお待ち申し上げます。